
神様のおもちゃ箱

仁科治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神様のおもちや箱

【Nコード】

N2653L

【作者名】

仁科治

【あらすじ】

酒を飲んでいた祖父が「お前の母親がきても、口をきいてはならないぞ」といった。

唐突だった。「母」のことだとわかるまで時間がかかったようだ。

？ー3 僕は父母のことを答えられなかった

？ー3 僕は父母のことを答えられなかった

> 最初の手紙3<

夕食後、僕が漫画雑誌を読んでいたとき、酒を飲んでいた祖父が「お前の母親がきても、口をきいてはならないぞ」といった。

唐突だった。「母」のことだとわかるまで時間がかかったようだ。目をあげると、不機嫌な祖父の顔があった。祖父は僕が無視したと感じたのだろうか。もう一度、「口をきいてはならないぞ」と繰り返した。僕は、正座をして大きくうなずいた。

その夜以降、周囲の話に「母」の名があがるのに注意するようになった。会いたいという気持ちからではなかった。逆だった。僕の中に母が汚れたものという感じで残っていたからだ。

そのころ、僕は祖父母と叔母の四人暮らしだった。

祖母は目端の利く人だった。叔母に美容院を開かせていた。

住居を裏に、表通りに面して店を構えた。

場所柄が良かったのか、従業員を三人ほど住み込みで雇っていたから、そこそこうまくいっていたようだ。

従業員は二〇歳前か、あるいは中学を卒業したばかりの人もいたと思うが、僕にはずいぶんお姉さんといった感じの人たちだった。

彼女たちの中にいるのが、僕は好きだった。彼女たちには甘えたい、とても意地の悪い子どもで、おそらく嫌われていたと思う。

祖父の造船の仕事も順調だったらしく、僕は訪ねてくる客からもらつ小遣いでいつも買い食いに不自由しなかった。正月のお年玉は、使うのに苦労した。

「あなたのお父さんとお母さんは、どこにいるの」
担任の女教師が授業中に突然、聞いてきた。

僕は立つたまま答えられなかった。頭の中でぐるぐると考えてみるのだが、どう説明してみればいいのかわからなかった。

「教えてくれなくちゃ、何もわからないじゃないの」

なぜ、この場所で説明しなければいけないのか。みんなからも好奇の目を向けられている教室で、どう話したらいいのか、答えようとする僕の言葉は脈絡がはつきりしなかったはずだ。

「何、言ってるのか」。担任の言葉にクラス全員が笑った。

僕は、耳まで真っ赤になっているのがよくわかった。体が熱かった。立っている僕のお尻は後ろからしきりにつつかれた。

何の授業のときであつたか覚えていないが、その時間中、僕は黙って真っ赤になって立っていた。僕がみんなから軽くあしらわれるようになったのも、そういつたことがあつたころからだつたと思う。僕を狙って意地悪をする奴もいた。

僕は、それからズル休みを繰り返すようになった。

布団から起きられず、風邪と称した。祖母は僕を十分甘やかせてくれていたから、学校を休むのは簡単だった。

祖母はいつも学校を休んで寝ている僕の枕元に、漫画本を山ほど買ってきてくれた。全部古本だったが、美容院におく本を購入している関係で手に入れるのが容易だった。

僕は、それを夕方まで布団の中で読んだ。すると、夕飯までには熱が出た。すっかり病人になってしまい、お粥を食べながら明日も学校は休みになるなと思った。

寝ているのに飽きると、絵の具と画用紙を出してきて、絵を描いた。そんな僕をみて、叔母はとても嫌な顔をした。「怠け者」と明らかに言っていた。その顔は父にも向けられるのを見たことがあるからだ。

僕はバツの悪い思いにはなるが、祖母の庇護の下で好き勝手なことができていた。それもまたしばらくのことで、いつしか僕は元氣になって、小学校五年の学校生活に戻っていた。そんなことを繰り返していた。

そんな僕がすこし変身した。

それは、ほんのちょっとしたことだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2653/>

神様のおもちゃ箱

2010年10月28日07時55分発行